

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	3070104280		
法人名	有限会社 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	和歌山市小瀬田 8 5 番地 (電 話) 073-479-2299		
評価機関名	和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山市太田1丁目 1 3 - 1 駅前東ビル4階F 室		
訪問調査日	平成22年3月6日	評価確定日	平成22年3月30日

【情報提供票より】 (22年2月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	9人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.75人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円・40,000円・45,000円		その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無 (円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (2月 16日現在)

利用者人数	17名	男性 2名	女性 15名
要介護1	0	要介護2	4
要介護3	9	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85.8歳	最低 67歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人稲祥会稲田病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かで緑の多い環境の中、入口も開放的であり、玄関先には手入れした花が咲き、入っていきやすい雰囲気のあるホームである。施設長・副施設長は熱意を持って運営にあたり、又、職員も向上していこうという意欲があり、共に「良いホーム作り」を目指している。入居者・家族・職員が、安心して生活できるホームをとの事から、特に医療面に力を入れている。医療との連携だけでなく、近隣との交流や連携も盛んであり、地域に溶け込んだ毎日となっている。ホーム内で、入居者が落ち着いた表情で楽しく職員と過ごす生活の様子があり、安定した毎日が窺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	月例の会議だけでなく、日々の中でも取り組みを行い、課題を得ることは自分達の見直しの機会と捉える等前向きな方向性を持っている。前回の評価を踏まえて、管理者・職員だけでなく、運営推進会議や家族にも諮る等をして、積極的な姿勢である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対する取り組みも積極的であり、一人ひとりの職員も良く理解しており、ホーム全体での向上を目指している姿勢が表れている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催する事は当然として捉え、メンバーの出席にも配慮を行い、出席しやすい日や雰囲気作り、又、出席して貰いにくいメンバーにも配慮のある呼びかけを行い、積極的な運営を行っている事が分かる。ホーム運営に活かせる会議となるように努力している姿勢がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	一人ひとりに合わせた「便り」の発行・ホームへ来て貰いやすい雰囲気作り・話しやすい環境作り等々に配慮しており、管理者や職員と関わりを持ちやすいホームとすることで、家族との関係作りを円滑にできるように努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の方との交流に力を入れており、近隣の方のグループホームに対する理解が深まることで積極的な声かけや投げかけが多くなってきている。こちらから地域行事へ参加するだけでなく、ホーム行事にも参加して貰えるような運営を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自然の中で、地域の人の中で安心して自由に暮らせることを基本に本人・家族・管理者・職員が一体となって取り組み、ストレスをためない生活という独自の理念に向けて日々進んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会議だけでなく、日常から話し合いや確認を行い、取り組みもホーム内だけでとどめるのではなく、運営推進会議等にも諮り積極的な取り組みになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方々との交流は盛んであり、自治会の行事に参加するだけでなく、ホームの行事にも来て貰えるようにしている。日常のやり取りも積極的であり、季節のお野菜を頂いたり、それをホームでの食事に活かしたりと温かい交流となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をホーム全体での見直しの良い機会と捉えており、評価に関する勉強会や会議等も開催し、積極的な取り組みとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの報告に終わるだけではなく、ホームを良くしていくための取り組みの機会としている。地域との交流への発信としたり、ホーム内の課題の検討の場としたりしており、活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携も身近な支所とのやり取りをきっかけとして、待ちの姿勢でなく、ホーム側からの働きかけを積極的に行っており、それが円滑な連携に繋がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「便り」の毎月の発行も一人ひとりに合わせたものにしており、きめ細かなものとなっている。行事等を行う際も、家族に負担にならない配慮をした上での参加を呼び掛け、出来るだけ家族と話したりできる場をつくる努力をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族出席も行っており、日常からも意見が言いやすい雰囲気作りを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットを職員がどちらでも対応できるように日頃から交流を行ったりしており、そのことが入居者にとっても職員は全て馴染みの人となっており、急な対応にも即応できる体制が出来ている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常から管理者は職員の公的私的な面でも交流を図っており、信頼関係が築けている。研修においても、職員のレベルや個人の希望等に合わせて皆がその状況や状態に合わせて受講できるようにしており、伝達講習も必ず行えるようにし、ホーム全体の向上に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設をみて、自ホームに活かすことを実践しており、他施設への実習も積極的に行い、それを踏まえてホームでの向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心を基礎とするために一人ひとりに合わせた配慮を行っている。新入所の場合でも不安感の強い方の場合などはデイ利用を何ヶ月か続けて関係作り等を行い利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に入居の方の気持ちを考えられる姿勢を持ち、行事等も変化のある楽しみの持てるものに工夫している。日常もゆったりとした雰囲気の中で職員が入居者の声を聞こうとする姿勢が見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族からも少しずつであっても、思いや暮らしを聞く姿勢を持ち、一つのことで本人に合わせて実践できるように取り組んでいる。自己表現が難しい方にも生活の中で寄り添う事でその方の思いを知ろうとする姿勢が見られる。		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、見直しシートといったものを使うことで、職員全員の意見が反映できるように配慮しており、実際に作成時にも職員が同席して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しシート等の活用で、日々の本人の実情と計画が合致しているかを皆が分かるようにしている。その中で、必要に応じての計画見直しを行っている。		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関との連携に力を入れている事を活かして、入居者やご家族に対して安心のある支援を行っている。生活の基本である食事も栄養指導を受けながら入居者の希望のメニューにする等、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関とは密接に連携しており、何かの時にも即対応できるようにしている。流行性の疾病に対してや夜間対応にも充分配慮して支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去の経験（ターミナルケアを行った）を活かしながら、本人やご家族の意向を十分に汲み取り、職員間でも日頃から対応についての研修等も行うことで、対応ができるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等には、充分配慮した取扱いをしている。しかし、ホーム外からの受け入れを柔軟にするために面会簿等の取扱いが難しくなっている。	○	面会簿の取扱いについては、記入の仕方を再度検討して、プライバシー保護が確保できるような工夫が欲しい。面会表ではなく、一枚一枚の記入用紙にする等の工夫を行うことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが違うという認識を管理者・職員共にもっており、ご家族との連携をも大切にしながらそれぞれの時間を過ごせるようにできる支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの決定時だけの問いかけでなく、食事中やその他の場面でも「何が希望か」や「何が好みか」等を聞き取り、それを日々の食事に活かしている。出来ること出来ないことも能力に合わせて楽しい雰囲気の中で行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特別な時以外は、ほぼ毎日入浴している。又、一人ひとりの状況にも合わせて足浴等も取り入れている。夜の入浴についても医師と相談して現在入居している方については夜間に入浴は負担が大きいとのことから行っていない。一律に決めるのではなく、検討を行った上で実践している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来ること出来ないことは勿論、興味のあることないことを確認し、ホーム内ですること、ホーム外ですること等多種多様な場面で支援できるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中の散歩等も地域の環境を利用して安全な中で実践している。外出時には、地域の方々の交流も出来るように日常からの取り組みも行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の意味を管理者・職員共に理解し、鍵をかけるかけないという点についても運営推進会議やご家族に諮る等して実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内での訓練等の対策だけでなく、地域での訓練にも参加して災害対策に備えるだけでなく、地域交流の場ともなっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の利用はもとより、栄養については栄養士による指導等も貰い、入居者の好みに合わせた上でのバランスのとれた楽しい美味しい食事となっている。糖尿病の方には間食や食事の内容を工夫して提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られたり、日々の写真が掲示されていたりと生活感があり、ソファやテーブル、テレビ等の配置も考えられており、ゆったりした雰囲気でも過ごすことができる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や物品の持ち込みもその人らしさが出ており、「自分の空間」という感がある。居心地の良い過ごしやすいものとなっている。		

※  は、重点項目。